



社会医療法人近森会

発行 ● 2011年8月25日

びろっば

9

Vol.302

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

第58回よさこい祭り

近森会グループよさこいチーム「ちかもり」

縦横夢人に踊りました!

よさこい実行委員会代表
総務部長補佐 溝渕 克郎



2011年8月9～11日の3日間踊り続けたチーム「ちかもり」



残念ながら今年は後夜祭への出場はできませんでしたが、よさこい祭りを通じて職員の皆さんが一致団結し、平素より医療現場で培ってきたチームとしての行動により、楽しく夏をエンジョイしたことは間違いのない事実です。

本年度の「ちかもり」はよさこいのテーマである東北地方の復興への希望を「光」で表現し、高知の皆さんの健康を願って元気に「縦横夢人」として踊れたのではないかと誇りに思っています。 みぞぶち かつろう

今年は東日本大震災の自粛ムードの影響でよさこい祭りの開催も危ぶまれていましたが、「東北地方の被災された方々を元気にできるように」との思いにより開催され、過去最高の191チームが参加することになりました。

昨年のよさこい祭りでは地区競演場連合会奨励賞を受賞したことによって、今年の「ちかもり」は前夜祭からの参加となっていました。踊り子の参加が当初は予定より少なく、練習量についての不安と前夜祭初出場の期待が交錯していました。

踊り子およびその他のスタッフの皆さんのよさこい祭り参加に対する熱意や近森会全体のご協力をいただき、前夜祭・本祭と事故もなく、無事今年のよさこい祭りを終えることができたことに感謝しています。



都会のネズミと田舎のネズミ



近森 正幸

今年7月、京都の北、貴船の料理屋に24人の懐かしい顔が集まって、大学の同窓会が行われた。京都市内は34℃と暑かったが、貴船の溪流に渡した床は25℃と心地よかった。

今回の集合場所は地下鉄の「宝ヶ池駅」というので行って見ても「宝ヶ池」という駅はなく、年甲斐もなく慌ててしまった。北の終点「国際会館駅」の近くに宝ヶ池があるので、とりあえず行ってみると、何人かが集まっていた。幹事もアバウトなもので「すまん、すまん」で終わってしまう。13人が集まったところで早めに駅を出発、結局

夫婦二組を置き去りにしてしまった。

きれいだころの舞妓さん6人が入り華やかな会となったが、還暦を過ぎた同窓生の話題はもっぱら自分の病氣自慢で盛り上がっていた。

一緒に写っているのは林君といって癌研に次いで民間で癌専門病院を立ち上げ、大阪で多くの病院を経営しているオーナーである。都会では市場が大きく、いつも事業を展開して彼の病院グループは急成長を遂げている。

彼と病院経営の話をしていると、イソップの童話ではないが「都会のネズミ」と「田舎のネズミ」の話が思い出される。都会では常にリスクがあり、競争も激しく、経営も厳しくしないと生きていけない。一方、田舎では競争が少ない分のんびりと楽しみながら仕事ができる。

互いにそれぞれの地で仕事をしているわけだが、お互いの羨ましいところも辛いところも話し、認め合うことができるのは、やはり同窓のゆえだろうか。

理事長・ちかもり まさゆき

チーム医療の発祥地 精神科の実力

近森会統括看護部長 梶原 和歌



厚生省は7月7日「がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患」を地域医療の医療計画に5大疾病として盛り込むことを発表しました。

職場でのうつ病や高齢化に伴う認知症の患者さんが年々増加しているためです。それに先立ち、7月3日付の読売新聞では「病院の実力」うつ病治療の特集をしていました。

これは日本精神神経学会の研修施設に認定されている病院など、1465カ

所を対象に305施設から得た回答の報告で、患者数の多い166施設が掲載されていました。高知県では高知大学、高知医療センター、土佐病院、県立芸陽病院、田辺病院、近森病院第二分院の6施設でしたが、新規患者数はダントツで第二分院が1位でした。

注目すべきは、薬物療法以外の精神療法（認知行動療法、対人関係療法、精神分析的治療、家族療法）を四つとも実施しているところは当院の他8施

設しかありませんでした。さらに復職支援プログラムをもち、年間参加者数が100人を超えている所は6施設しかないのに近森が入っていたことです。おそらくデイケアパティオの治療成績と思います。

日ごろ第二分院の医師、看護師、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、事務職員などみんなが熱心に勉強会をし、チームで継続した関わりを地道におこなっていることは知っていましたが、改めて全国レベルだと理解できました。当会の職員も何人かお世話になりましたが、プライバシーがきちんと守られ、同意を得た上での職場との連携やサポートには当事者、家族、当事者の属する管理者たちも鍛えられ教えられてきたように思います。

「患者さんを尊重した看護と、関わりはチームアプローチで」を30年前からかけ、近森会でのチーム医療発祥地は精神科と思っていました。チーム医療は治療の構造であり成果は関わる皆を成長させてくれました。

かじはら わか

近年、メタボリック・シンドロームやアンチ・エイジングという言葉が、新聞や雑誌にもとりあげられ、一般の人にもよく知られるようになってきました。

これは、肥満、高血圧、脂質異常症、糖尿病などのリスク因子を予防、治療することによって、心臓血管病の発生率や死亡率を減少させ、ひいては国民医療費の削減につなげようという、厚生労働省や各種学会の意向にもとづいています。

たとえば、減塩や降圧剤による血圧のコントロールによって脳卒中の死亡率が著明に減少したという事実は、こうした集団的アプローチの重要性を示すものだと思います。

しかし、メタボリック・シンドロームの診断基準や、各リスク因子のコントロール目標、実際の医療費の削減効果など

については、疑問の残る点も少なく、とくに脂質異常症などについての学会発表や製薬会社から年々加えられるコントロール目標をみると、首をかしげることも少なくありません。

今日日本人の平均寿命は世界一となっていますが、一方で国全体の借金や国民医療費は年々増え続け、いつ破綻してもおかしくないといわれています。また、世界では貧困による飢餓や感染症のために、若くして命を落とす人も決して少く

ありません。こうしたなかで、あちこちの講演会などでいわれるままに、数値にこだわり無批判に高価な薬を追加処方することが、一社会人として社会経済的に正しい行為なのかどうか、震災や原発の報道をみながら疑問を感じることも少なくない今日この頃です。

私の流儀 5

メタボリック・シンドローム



近森病院副院長
はましげ なおひさ
浜重 直久

9月の歳時記 カワラナデシコ

ストレスケアセンター パティオ
看護師 堀尾 恵

秋の七草のナデシコは本種のことを指します。別名ナデシコ、ヤマトナデシコといい、7月～10月頃日当たりの良い草地や河原に淡い紅紫色の花を咲かせます。清楚なイメージの花ですが、花言葉には才能、快活などという意味もあり、7月に大輪の花を咲かせた「なでしこジャパン」に「あきらめない強さ」をもらった方も多いのではないのでしょうか。 ほりお めぐみ



絵・総務課
広報担当
公文幸子

私の趣味 閃門

近森病院臨床検査部
臨床検査技師主任

橘 知佐



現代アーティストが作り出す世界は私の想像をはるかに超える世界です。なんにもない真っ白な所から発想がぼっと生まれ、それを現実に様々な形にして世の中に発表し世間に評価される。そんな世界で生きているヒト達の作品を見るのが私は好きです。

妹が書家アーティストで作品を作り続けている事もあって、彼女のいろんな作品も見て刺激を受けてきました。まだまだ作品だけでは食べていけないので画廊で働いていますが、画廊に遊びに行くと色々なアーティストの絵画や陶器、工芸作品が展示されています。それらの作品は予想だにしない色使いや構成、繊細な線、形が巧妙に計算されていて、ただただ圧倒されてしまいます。

今度は11月に妹の個展（銀座）が始まるので、彼女の新しい閃きの「書」の世界観を鑑賞してきたいと思います。

たちばな ちさ

チームにおける看護職のコミュニケーション技術 ～東日本大震災の ボランティア活動を通してふりえる～

近森病院第二分院看護部長 松永 智香

7月25日、聖路加看護大学精神看護学教授の萱間真美先生（写真右）をお呼びして、東日本大震災のボランティア活動の体験を通じたコミュニケーションについてのお話をいただきました。内容は、臨床現場で患者さんやご家族に対して、職場の人間関係で、家庭や地域の人間関係でなど、様々な場面で活用できるものでした。

また、われらが仲野栄先生（日本精神科看護技術協会専務理事）のエスコートで、4名の志あるナースマンたち萩原博看護師長、上総満高看護師主任、下元伸之看護師、山中俊典看護師が「心のケアチーム」での体験や感想を語り、萱間先生や山本彰先生、会場に来られている参加者の方々と時間と情報を共有することができました。笑いもあり、



学びも大きい楽しい講演会でした。



心のケアチームは、高知県の事業で、4月17日から8月12日まで20数チームがつないでいます。今回の報告は、4名でしたが、その後1名のナースマン（林義人）と市川医師が当院から出向しております。災害医療、チーム医療、連携、システムの構築など課題の多い活動であるにも関わらず、6名がそれぞれ初めての体験でありました。

ナースマンの一人は「自分のことだけでなく、周りの人を気遣いながら避難所生活をしている姿を見て、その忍耐強さと寛容さに驚いた。高知県から来ている私たちまで気遣ってくれた。被災地の方と海を見ながら話をしていた際、何がいちばん欲しいですかと質問したら『仕事、家族、お金、家』と答えられたことが印象に残っている」と語ってくれました。ボランティアなので自らが行きたいという意志が明確であるのが第一条件ですが、看護師として、人として、組織人として信頼がおけるスタッフだったので、安心して見送ることができました。お疲れ様、ありがとう。 まつなが ともか



萩原博看護師長



上総満高看護師主任



下元伸之看護師



山中俊典看護師

ちょっと気になる話題の治療法

整形外科 7

MICRONAIL®

近森病院整形外科部長 上田 英輝

お年寄りが転倒して手を突いてしまうと手首のところで橈骨（とうこつ）遠位端骨折を起こします。長年この骨折にはギプス固定が標準治療でしたが、時間もかかる上に手一本使えないだけでも日常生活が難儀であり、かなり不評でした。

最近、積極的に手術を行って早くから手が使える状態にしようという考え方が主流になり、その手術の中でもより体に優しい手術として MICRONAIL® を使った手術を 2006 年から行っています。MICRONAIL® は髄内釘と呼ばれ、大多数の整形外科医が用いている骨の外から支

えるプレート固定とは異なり、骨の中から骨折部を支えようという考え方です。手術は小一時間ほどで終わり、傷も小さく、術後1週から外固定なしに手首を動かし始めることができます。ギプス治療なら6～8週間固定した後からリハビリが始まるのでその差は歴然です。

とはいえ骨折しないことが一番ですから、普段から転ばないため日本整形外科学会が推奨する『ロコモ体操』や、骨を丈夫にする食事なんかに気を配ってください。

うえた えいき



第二分院「心のケアチーム」

寄付金会計報告

去る4月26日、第二分院「心のケアチーム」が出発するにあたり、「子どもたちに芋ケンピのお土産を」とワンコインカンパを院内でつりました。その結果予想を超えて、158,454円もお金が集まり、子どもたちには芋ケンピや玩具、高知のトマトを持って行っていただきました。

残金が116,104円でしたので、残金について「心のケアチーム高知県と岩手県障害福祉課」で討議の結果、ご希望のパワーポイントの入ったノートパソコンをお贈りすることになり、先日郵送いたしました。職員のみなさまのご協力、ほんとうに有難うございました。

8月26日付けで、岩手県下閉伊郡山田町の健康福祉課より、お礼状をいただきました。一刻も早い復興を心よりご祈念いたします。（梶原和歌）

Bangkok THAILAND Samitivej Hospital

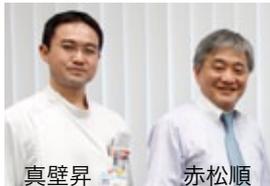
タイのサミティベート病院との交換研修に先駆けて8月22日（月）から3日間、サミティベート病院のトップが、これからの職員交換研修に向けた話し合いのためにご来院されました。

▶写真は前列中央がCEOのレイモンド・チョン氏、前列右が院長チョクチャイ先生、後列右が日本人部門責任者の松尾高人氏です



DTI 超音波検査機を持ち歩き

近森病院形成外科部長 赤松 順
近森病院栄養サポートセンター科長 真壁 昇
(共に褥瘡学会認定師)



「褥瘡の発生要因を探るために有用」と力説されました。実演も行われ、なぜ褥瘡ができたのか、対策を行う上で確実な情報が得られるので参加者も興味津々でした。

最近、深部から表層に進行する褥瘡(Deep Tissue Injury:DTI)が話題となっています。2011年7月28日、管理棟において、東葛クリニック病院(千葉県)のWOCナース(皮膚・排泄ケア認定看護師)浦田克美先生と超音波検査士の富

田則明先生をお迎えし、DTIを中心とした褥瘡セミナーを開催しました。

DTIは深部損傷から始まるため、表面からは観察されにくく、超音波検査が有用とされています。浦田先生は小型の超音波検査機を聴診器のように持ち歩き、

テクノロジーの進化によって、見えなかったものが容易に見えるようになり、多くの医療環境が進化しています。数年先、看護師がより小型の超音波検査機を聴診器のように首からぶら下げている時代になっているかもしれません。

乞! 熱烈応援

橋渡しを

診療支援部
企画情報室室長
長山 信夫



振り返ってみますと入職は1993(平成5)年9月ですので、近森会で18年間お世話になっております。今後とも現行システムの安定稼働はもちろんですが、システム更新や新システム導入時には、病院とメーカーの橋渡しができるように努力してまいります。

ながやま のぶお

新しい職場で

近森オルソリハビリテーション病院
事務長補佐
濱田 真次



ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、前所属は企画情報室で電子カルテや医療情報システムに携わっていました。オルソ病院では、新しく医事の仕事と、小松事務長のサポートをすることになります。事務室は少ないスタッフですが、今後ともご指導よろしくお願い致します。

はまだ しんじ

医事課の重要性を理解して

診療支援部
医事課主任
竹崎 智博



松田会より近森病院医事課にきて今年で4年目を迎えます。現在は、診療報酬請求を始め未収金業務、施設基準届出などの業務を中心に行っています。また、医事業務以外にもDMAT活動など、日常生活ではできない経験をさせていただいています。今後は、もっと医事課全体の流れを把握し細やかなところにも目配りができるように心掛けて行きたいと思っています。

たけざき ともひろ

医事課として再出発

診療支援部医事課
課長 佐々木 昭典



就職して今月でちょうど14年になります。医事課としての勤務経験はあるもののそれは一昔前(約10年)の事。この間、医療業界を取り巻く環境の変化と共に医事課の業務内容も多様化しており、新たな気持ちでスタートを切ったつもりで医事課としての業務に邁進していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

ささき あきのり

振り返ってみると

近森オルソリハビリテーション病院
理学療法科主任 谷内 政子



オルソ開院当初より配属させてもらい、周囲のスタッフに助けられながらリーダーとして日々の業務に追われてきたように思います。今回、主任心得に就任させていただくこととなり、心機一転した気持ちで今度は周囲のスタッフの助けになれるように業務に取り組んでいきたいと思っております。

たにうち まさこ

新たな気持ちで

近森病院臨床検査部
主任 池内 梨沙



今回、検査室主任を仰せつかりました。高知で出会った色々な方々に、社会の一員として、臨床検査技師として育てていただいたと感じています。現段階ではできる事のほうが少ないですが、環境変化に臨機応変に対応できるよう、日々努力していこうと思います。他部署の方々や検査の仲間たちと協力しながら、新たな気持ちで頑張りますのでよろしくお願いいたします。

いけうち りさ

地道に貪欲に

診療支援部
診療情報管理室
室長代理 中屋 智



近森会に入職して4年目に入りました。医事課、オルソリハ事務室を経て、このたび診療情報管理室室長代理に任命されました。診療情報管理の分野は未経験ではありますが、必要な知識・技術の習得に努め、地道にそして貪欲に挑戦していきたいと考えておりますので、ご指導の程よろしくお願いたします。

なかや とも

技術に心を乗せて

近森オルソリハビリテーション病院
理学療法科主任 百田 佐智



オルソに配属されて3年が経過しました。たくさん先輩、後輩に助けられてここまで来ることが出来たと思います。主任として何ができるか分かりませんが、「技術に心を乗せて」患者さんのため、病院のために力を尽くしていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

ももた さち

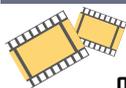
検査部の軸となれるよう

近森病院臨床検査部
主任 古田 博美



目立つことの苦手な私がこの度、臨床検査部の主任心得の辞令をいただき、身の引き締まる思いでいっぱいです。近森病院の5カ年計画は進んでいます。私の所属している生理検査でも臨床から求められる課題は多いですが、一つずつクリアしていき質の高い検査部をめざしていきたいと思っております。まだまだ未熟ですが、検査部の軸となれるよう頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

ふるた ひろみ



チカモリシネマクラブ 発足!

映画を通じて皆さんと 人生を豊かにしていきましょう

近森病院神経内科主任部長 山崎 正博



かつて、映画は未知の世界の窓口でもあり、ファッションや食文化の発信元でもあり、多様な他人の人生をたどることのできる万華鏡でした。「サヨナラおじさん」として知られていた映画評論家の故淀川長治さんは「人生のことはすべて映画から学んだ」というほど映画一筋の人でした。

娯楽中心の映画の全盛期は昭和40年代前半でした。TVが家庭に入り、娯楽も多種多様なものができてきて映画はあまり顧みられなくなっていますが、もう一度映画の持っている力について語り合いたいと思い同好の士が集まりました。

今回、当クラブ発足に当たっては、単に娯楽性を追っかけるのではなく、映画を通じて人を想う切なさや思いやりの心、凛とした生き方、個人の能力とチームの関係、コミュニケーション方法など、人生においても仕事においても参考になるような作品を選び上

映します。

皆さん、毎月木曜日の夕方は、Let's enjoy the movie! 記念すべき第一回目は8/19(金)「ある日どこかで」を上映しました。

やまさき まさひろ

近森病院が献血表彰を受けました

8月1日、献血の推進に積極的に協力、日本の献血事業の発展に寄与したとして厚生労働大臣より表彰状が贈られました。



前後ともに右から二人目が、川添昇管理部長と広報担当公文幸子

● ハッスル研修医 ●

体調管理に気をつけながら

初期研修医 山川 泰幸

今年の4月から消化器内科で研修をさせていただいています。研修が始まってから、すでに4カ月が経ちますが、日々分からないことだらけで、周りの人たちに支えられながら何とか日々過ごしている毎日です。

消化器内科では、診察、腹部エコーの実践、画像の読み方など、腹部疾患にとどまらずインスリンスケールなどいろいろな事を勉強させていただいております。また病棟にできる限り足を運ぶように心がけています。

研修生活が始まってからは運動する機会がめっきり減ってしまいました。プールやゴルフにも行けていないので、自分の体調管理にも気を付けないといけないなと感じています。これからまだまだ研修が続いていきますが、いろいろな事に対して積極的に取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお祈りします。

やまかわ やすゆき



埋もれないように

初期研修医 勝又 祥文

研修をスタートし、はや5カ月が経過しました。思い返せば、小学校の卒業式で、「夢はどんな病気でも治せるお医者さんになること」と、両親やたくさんの保護者の前で大見得を切った以来、それがいつしか自分の本当の夢となり、現在まで至っております。今はまだどんな病気でも治せるなんて、夢のまた夢の話ですが。

とにかく、同期の研修医に刺激を受け、多くの優しい看護師さんを始めとするスタッフの皆様を支えられ、そして、上級医の先生方にご指導を受け、本当に充実した医師人生の第一歩を踏み出せたかなと思っています。とりあえず、キャラの濃すぎる同期の研修医のなかで埋もれないように、何事にも積極的に取り組み、一歩ずつ成長できるように、日々反省を繰り返し頑張っていきたいと思っています。患者さんのために何をすべきかを常に念頭に置き、元気よく頑張っていきますので、今後ともよろしくお祈りします。

かつまた よしふみ

管理部長の

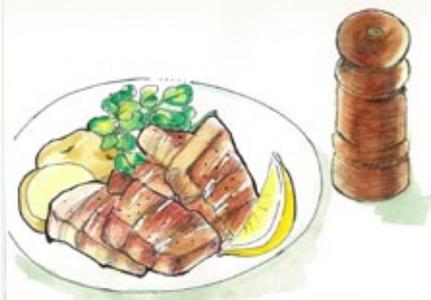
こだわりヘルシー美食 23

近森会管理部長 川添 昇

夏の日午後に暑い暑いと思いつつ冷蔵庫を開けると、目ぼしい物はなにもない。ベーコンの塊とじゃがいもの小さいのがゴロゴロあったので早速作ったのが、



ベーコンの厚切りステーキ



画・臨床栄養部長 吉田 妃佐

〈作り方〉一いたって簡単

- ① ベーコンを1センチぐらいの厚さに切る。何枚かはご自由に。
- ② ベーコンから油がしみ出る程、油なしのフライパンでしっかり焼く。
- ③ 焼上りに粒胡椒をたっぷり振り、もう一度表裏をさっと焼く。
- ④ オリーブオイルで素揚げしたじゃがいもとクレソンを添えて出来上り。

〈食べる〉

ベーコンはいためものやサラダなど、ともすれば脇役になることが多いが、今回は立派な主役である。脂身の濃厚なコクと身厚な豚肉の旨味を噛みしめながら、ハイボールをクビッと一口、その後、さっぱりしたポテト、この繰返しである。「胡椒はミルでつぶさないとベーコンには効かない」などと独り言をいながら食す。胡椒の粒々が舌に当たり噛むと香りが引き立つ。

エッセイストの玉村豊男さんが書いていたが、暑い日には、ワインや日本酒、ビールを氷塊に注いで飲むのもいいとのこと。「しかし氷が溶けないうちに飲まないとい味くなる」と言い訳をしながら嬉しそうにピッチを上げてしまうのは酒飲みのイヤしさである。そういえば知人が退院後に早々と赤ワインに氷と炭酸水で美味しそうに飲んでいたので思い出される。

かわぞえ のぼる

上海で突然倒れて・上

ぬま たかし 高知市田淵町(現桜井町)生まれ。京都産業大学を卒業後、三菱商事に入社。平成15年3月に准定年退職の後、高知県上海事務所初代首席代表等を経て、平成22年に三菱商事(上海)有限公司上海万博担当の就任中に脳梗塞を発症。近森リハビリテーション病院でリハビリ通院中



沼 敬

平成22年当時、私は中国の上海に単身赴任していました。その10月25日曜日、工作中に急に右手に不自由をおぼえ、上海華東医院の外国人専用病棟に入院することになりました。中国で日本人が医療機関に入院する事態に陥った場合、まず探さなければならないのは外国人専用の病棟を持つ病院です。中国では外国人と接触することを「外事」といい、「外事」の特別な許可を政府から得ている場所のみ外国人は安心出来るのです。

病院が決まれば、次はいうまでもなく現金を用意することです。最低でも2000人民元(ほぼ大卒の初任給手取り額)を持参しましょう。中国の医療費の水準は日本に比べそれ程高くないが、若し入院する羽目に陥った場合入院保証金が必要だからです。そして病棟内では英語の分かるスタッフは多いので便利ですが、やはり病院での意思疎通には通訳のできる付添人の存在がものをいいます。

私の場合は会社が契約している保険会社からすべての費用が病院に支払われることが保証されていました。一般的に中国の邦人駐在員の家族を含めた現地医療費は、日本での保険制度が適用外なので、出産関連や歯科治療を除き、会社が全額負担してくれるケースが多いようです。即ち、立替えた医療費の「公的領収書」(中国語で「發票」)を基に会社に請求するわけです。

病院に行った際の手順は、とくに旅行者はあらかじめ日本円やトラベラーズチェックを現地通貨の人民元に両替することです。まず受付で自ら積極的(註:他人を押しつけてでも)に病状を詳細に説明しなければなりません。中国には日本のような整然と静粛に、辛抱強く並んで順番を待つという習慣がありません。病院側の対応も同様に、我先にと目の前に現れたものから適宜処理します。外国人専用病棟は、混雑していませんが、一般の病棟では患者に付き添いが加わり混雑と喧騒状態のなかで、動けず話す元気も無い患者の代わりに、番取りや支払いに東奔西走する付き添いの存在がたいへん重要なのです。

診察室ではとにかく患者や付き添いに病状を喋らせて、医師はそれをひたすらカルテに書き込むだけで、症状に適した処方箋が機械的に発行され、その処方箋を持って会計へ行き、激痛があっても歯を食いしばって支払いを済ませて、發票を握り締めて点滴ホールや院内薬局へ。点滴ホールで点滴薬が身体にセットされても横にはなれず、何十席もある大きなホールのなかを自分で歩いて空いている椅子を探し、上に張り巡らされた針金に引っ掛けてじっと点滴をします。当然此処でも付き添いが大活躍です。採血や静脈注射は専用の「窓口」に行き、自ら腕を突っ込んで打って貰います。 つづく

リレーエッセイ

時間の使い方

近森病院作業療法科作業療法士 筒井 文也



昨年まで東京の大学に行き、今年高知に帰って就職しました。私は小学2年からバスケットをずっと続けてきました。東京に行ったことで、体育館を借りるにも一苦労。なかなか好きなバスケットをできる環境がなかったです。でもこうして近森病院に就職でき、地元バスケット仲間も快く受け入れてくれてチームに所属できました。今では週に2~3回練習をして、毎月1回は県内のクラブチームのリーグ戦にも出ています。やはり、試合をした時の緊張感や練習でやったことができるようになることはとってもいい刺激になっています。

社会人になり、今は仕事もなれず大変な時期ですが、私は仕事のときは仕事を頑張り、休みの日はしっかり遊ぶという切り替えを大事にしていきたいと思っています。そのためにはどちらも中途半端ではなく、全力でやることが大切だと思います。今は仕事とスポーツしかできていないですが、これから時間を大切に、使い方を工夫しながら、海外へ旅行に行ったり新しい趣味を始めたり、いろんなことに挑戦していきたいと思っています。

つつい ふみや

図書室便り (2011年7月受入分)

- ・WHO Classification of Tumours of the Digestive System 4th Edition / Fred T.Bosman (他編)
- ・健康保険質疑応答集/健康保険制度研究会(監)
- ・Microsoft Power Point ビジネス問題集[2010/2007対応]/山崎紅
- 《寄贈本》
- ・Practical Guide to The Care of the Medical Patient Fifth Edition / Fred F.Ferri (編)
- ・図解循環器用語ハンドブック/堀正二(監)
- ・Coronary Intervention-PTCA,PTCR,CABGの選択とその実録-遠藤真弘
- ・不明熱診療マニュアル/村田康男(監)
- ・慢性肝炎の治療ガイド/日本肝臓学会(編)
- ・科学的根拠に基づく褥瘡局所治療のガイドライン/日本褥瘡学会(編)
- ・救急・集中治療第17巻臨時増刊循環管理Q&A 研修医からの質問337/山科章(編)
- ・外科手術に上達くなる法トッピングナイフたちの鍛練法/仲田和正(編)
- ・救急治療の指標 救命救急スタッフ必携/太田宗夫
- ・研修医の救急医療研修のための基礎知識改訂第4版/澤田祐介(編著)
- ・救急データブック/相川直樹(監)
- ・救急治療の実践第3版/梅山馨(他監)
- ・当直外来診療メモ Ver.2.3 / 鶴飼卓(編)
- ・トロント小児病院外傷マニュアル/荒木尚(他監訳)
- ・小児外科学ノート/戸谷拓二(他著)
- ・膝形態・機能と靭帯再建術/W・ミユラ(著) 新名正由(訳)
- ・麻酔科研修チェックノート/讃岐美智義
- ・MGHクリティカルケアブック第3版/稲田英一(他監訳)
- ・脳卒中治療マニュアル/鈴木明文
- ・パーキンソン病治療薬の選び方と使い方/水野美邦(編)
- ・内分泌代謝疾患レジデントマニュアル第2版/吉岡成人(他著)
- ・周期期輸液の考えかた 何を、どれだけ、どの速さ/丸山一男
- ・やさしく学ぶための輸液・栄養の第一歩/日本静脈経腸栄養学会(編)
- ・診療科医薬品集救急治療・薬剤ハンドブック第2版/山本保博(総合監)
- ・精神医学サブノート/武正健一(編)
- ・抗不安薬活用マニュアル/上島国利(編著)
- ・抗菌薬の考え方使い方 Ver.2 / 岩田健太郎(他著)
- ・画像解剖アトラス/平松慶博(他著)
- ・日経メディクイズ腹部X線篇/日経メディカル(編)
- ・MESAが検出されたらどうするか? / 橋本一(編著)
- ・抗菌薬を理解するために改訂第2版 / 橋本一(他編)
- ・最新医学知識の整理ブルミエ医学・医療総論第2版 / 橋本信也(他編)
- ・小薬理学書改訂2版/笹征史(他著)
- ・エッセンシャル循環器病学/須階二郎(他編) 第II版/柴田昭(他編) 第III版/大西義久(他編)
- ・New integrated Medical Lectures 臨床診断学診察編第2版/阿倍正和(他編) 神経病学第3版/田崎義昭(他編)
- ・衛生・公衆衛生学第3版/和田攻(編)
- ・医学要点双書3 発生学第2版/藤本十四秋(他著) 8 免疫学第2版/桂義元(他編著) 9 微生物学/竹田美文(他著)
- ・標準法医学・医事法制第2版/上山滋太郎(他編)
- ・解剖実習の手びき/寺田春水(他著)
- ・ベナセラフ免疫学第2版/小松信彦(他訳)
- ・組織学/小川和郎(編著)
- ・発生学提要/溝口史郎
- ・マクロ病理アトラス/西山保一
- 《視聴覚資料》
- ・Audio Visual Journal of JUA Vol.17 No.3 / 日本泌尿器科学会(監)

※誌面の都合上寄贈本の一部を割愛しました。

抗ガン剤治療に福音

将来の進路を考えた高校時代、「知の巨人」と呼ばれる医者で文芸評論家としてそののち名高くなった加藤周一の自伝『羊の歌』に、ロールモデル（行動の手本）を見つけたような気持ちになったという。それが医療人生のスタートだったわけだが、部長の医療に向き合う姿勢の底流には、この『羊の歌』の批評的精神に通じる深さや気概があったのではないだろうか。

部長の医療人生は①外科医時代②消化管ホルモンの研究で博士学位を取得した京大外科から帰郷した消化器外科医時代③乳腺外科と手術部時代④現在の外来化学療法時代と整理できそうだ。

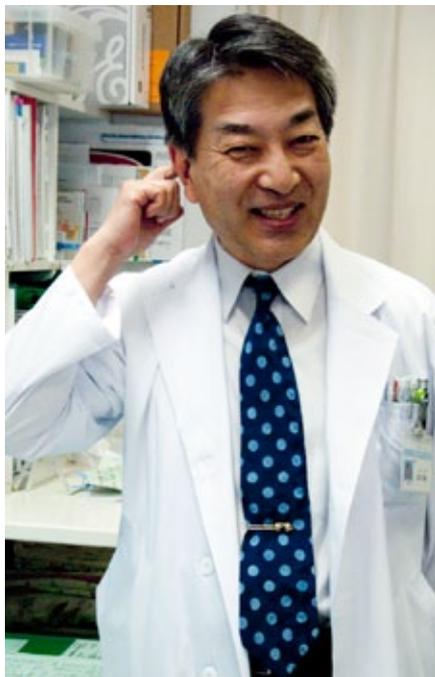
生体肝移植の海外研修

消化器外科医として経験を積み、②の時期にオーストラリアのブリスベンへ肝移植留学する。平成5年当時、島根医大、京大、信州大と生体肝移植が既に行なわれていて、日本の外科医がこぞって海外研修に出かけていた時代だった。肝移植手術は夜間実施が多く、短くて6時間、長ければ12時間の体力勝負だったそうで、部長の人生の底流を流れる「気概」の増強にこの研修は大いに役立ったのではないだろうか。

高知県内で最初の乳ガン治療法

③の乳腺外科時代は、高知県民の多くに女性たちへの貢献度がたいへん大きかったといえる。高知大学病院手術部時代の田中洋輔准教授が、乳ガン手術を受ける女性たちに、することが当たり前とされていて、のちに腕と手のむくみという重大な後遺症を引き起こすことのある「腋窩リンパ節郭清手術」が、本当に必要かどうかをそれぞれの患者さんで判定する手技を、いち早く導入したという業績である。

今日では乳ガンの国内標準療法となっているが、センチネルリンパ節という腋の下にある、ガン細胞が最初に流入するはずのリンパ節を調べること、腋の下のリンパ節を全て切り取るか、切り取る必要がないか調べる「センチネルリンパ節生検」という手技で、平成12年に検証に着手して信頼性を確かめたうえで、その後、高知県内では最も早く導入したのが田中准教授だった。



高名なおっぱい聖人

この乳ガン手術に関しては英文論文にできたそうだが、手術で英文論文が出せるというのも相当貴重なことらしい。田中部長は控えめというのか、その辺り淡々としておられて、部長の偉大さが外からは見えにくいのかも知れないが、西村剛師長はその大きな実績を指して「高名なおっぱい聖人」と呼ぶし、吉川ナースは「部長がいてくださるだけで、深刻な患者さんが快方に向かうような安心感を覚える」と信頼の大きさを強調する。

満願の思いをこめて近森病院に着任

ところで、高知大学病院時代の田中部長のもうひとつの大きな役割は手術部管理だった。国立大学法人化に伴う様々な書類の作成と、法人化後に急激に増えた手術の調整。さらに、全国の国立大学病院手術部会議がちょうど回って来たということもあった。「病院教授」の称号も受けたが、全国会議を成功させて、大学病院での責務を果たしたという思いもあったらしい。

さらに、乳ガン治療は手術の役割が縮小し、抗がん剤などの化学療法の役割が増大している昨今、還暦を前に部長は、これまでの経験を生かし、もっともっと大勢の患者さんのために、抗がん剤治療を専門にできないかと考え始め、ちょうどその頃、近森病院でその機会を得、昨年3月、満願の思い



●オーストラリア研修中の一枚。ゴールドコーストのカランビン野鳥園。「ブリスベンから100km（日本なら隣県でも、豪州では近くという感じ）で、よく遊びに行きました」

をこめて着任したのだった。

軌道にのってきた「乳腺外来」

日本ががん治療認定医機構のがん治療認定医で、制度が整いつつある現在まだ名前は暫定だが、その教育医としての経験をも生かせる舞台が近森病院で整ったわけである。高知県には7人しか居ないという日本乳癌学会乳腺専門医の資格を生かした乳腺外来も軌道にのってきているし、消化器癌、乳癌、肺癌の知識を生かせる現状に感謝したいともいわれる。

昨年の5月に刊行された『制吐薬適正使用ガイドライン』に準拠して、近森病院で使われている抗癌治療薬の組み合わせについて整理、標準化し、電子オーダーリングシステムも整え、先生方の使い勝手も格段に良くなった。

田中部長によると、「いまは副作用防止薬を十分に使えば、余り苦痛を感じることもなく、抗癌剤治療を受けることができるようになってきている」とのことだから、ガン患者には何よりの救いだ。

建設が進んでいる外来センターが11月に完成すると、6階の「点滴センター」で抗癌剤点滴も実施できるようになり、現在よりももっと快適な環境で治療が受けられるようになる予定だという。



「にこにこマーク」

近森オルソリハビリテーション病院
5階病棟看護師長 中谷 明未

皆さん、「にこにこマーク」を見て顔真似したことはありませんか？約19年前、娘がよちよち歩きだったころの写真です。笑った顔が「にこにこマーク」のようではありませんか？



この子を取り上げてくれた助産師の方が「なんかかわいい顔で笑うんですよ」といつてくれたのが昨日のようです。仕事、家事、育児に追われ、毎日があつという間に過ぎたようですが、この笑顔に何度癒されたことか……。

「笑う門には福来る」ということわざもあります。Let'sスマイル！

なかや あけみ

2011年7月の診療数 企画情報室

近森会グループ

外来患者数	17,635人
新入院患者数	841人
退院患者数	879人

近森病院

平均在院日数	14.11日
地域医療支援病院紹介率	97.30%
救急車搬入件数	518件
うち入院件数	257件
手術件数	429件
うち手術室実施	266件
→うち全身麻酔件数	160件

● 平成23年7月度県外出張件数 85件 延べ人数 168人 ●

お知らせ

● 第15回公開県民講座

「切らずに治す治療」

平成23年9月17日(土)

14:00～16:00

高知市文化プラザかるぼーと大ホール

● 地域医療講演会 実習編

第4回 心臓血管ウエットラボ

テーマ「心臓の解剖と心臓治療」

平成23年10月23日(日)

10:00～15:00(予定)

管理棟3階会議室

心臓を全く見たことがない人から透視でしか見たことがない人、さわってみたい人まで、さらには今さら他人には聞けない立場の人もどうぞご参加下さい。(職種に制限はありません)

● 運動会

9月11日(日)9:20集合

於：高知県立大学池キャンパス

編集室通信

ひろっぱ編集会議もこの春、旧管理棟応接室から広々とした新管理棟会議室に移り、大きな机とエクゼクティブな椅子に変わってモダンな雰囲気になりました。しかし、あの小さな部屋のソファーにぎゅうぎゅうにひざ、顔つき合わせて編集していた頃が懐かしく思うのは歳のせいでしょうか。会議内容は相変わらず濃い和

図書室便りは6面に移動しました。